

2022年度 自己評価書

2023年4月25日

学校法人北海道カトリック学園 旭川藤星高等学校

1 本年度の重点目標

- 1) 生徒の自立と自律を育むために「手をかけ、心をかけて、丁寧に育てる」指導体制の確立
- 2) 生徒・保護者・地域からの大きな信頼を得る学校づくり
- 3) 「良き伝統の継承と必要な変化」
- 4) 教職員チームの組織的な業務遂行、協働と匡弼という学校文化の醸成

2 本年度の経営方針

- 1) 授業時数の確保や成績処理など、教育課程の編成・運用・管理・点検・評価に関するプロセスを重視した学校経営
- 2) 「個別最適化された学び」の在り方の研究による教育活動の質向上
- 3) 教職員「資質・能力の向上」につなぐ校外研修の充実
- 4) 「協働」を基軸とした「学校における働き方改革」の推進

3 評価方法

評価方法は、次のとおり4段階とする。

- A 十分に達成されている。 B 達成されている。
C 取り組まれているが、成果が十分でない。 D 取り組みが不十分である。

4 自己評価結果

分野	評価項目	自己評価	
		達成状況	改善の方策
学習指導 教育課程	1 授業で「教える」から「学ぶ」への転換と、主体的・協働的な学びが進展している。	C	授業において教員はファシリテーターに徹することを再確認し、学習者の学びを深める授業展開についての研修を深める。
	2 それぞれ3つのコースが特色ある教育課程のもと学習活動が行われている。	C	各コースのプログラムについて、その成果を検証し、目標の達成のためにに合わせた高いレベルに持ち上げる。
進路指導	3 各学年が生徒の進路実現をするための指導を組織的に行っている。	C	進路指導計画に基づき、学年進路担当が主体的な計画運営を図るとともに、生徒の実態に合わせ適宜必要な指導を行う。
	4 進路実現のための具体的な対応(講習・模試・進路指導等)を十分に行っている。	C	進路シラバスを活用し、出口の目標に照準を合わせた3年間の学習指導と進路指導を連動して積極的に取り組む。
生徒指導	5 本校の生徒指導は、自立、自律のための指導になっている。	C	PDS手帳の効果的な活用推進により、PDCAの考え方をすべての生徒が理解し、実践するように指導を徹底する。
	6 生徒の問題行動が発生したときの教員の指導体制、連携、役割分担は明確になっている。	C	問題行動の予防に力を入れるとともに、発生時の対応における校内体制を整備する。
保健 安全	7 生徒の健康管理と健康増進のための対応が行われている。	B	学年・HR担任と養護教諭との連携で、生徒の健康チェックと情報交換をこまめに実施する。
管安 理全	8 必要な危機管理体制を整えている。	C	状況に応じて危機管理マニュアルを見直しなど、点検、検証を行うことで教職員の危機管理意識を醸成する。
援特 教別 育支	9 教育支援、特別支援体制は整備されている。	C	教育支援コーディネーターやカウンセラーと教員の普段からの連携を図り、指導体制の強化を図る。
組 織 運 営	10 各分掌は相互に連携を図りながら課題解決に努めている。	C	運営会議等の場面だけでなく、日常的に部長・主任のコミュニケーション向上を図り、課題解決に協働してあたるよう努める。
	11 PDCAサイクルのもとで効果的に教育活動が行われている。	C	常にPDCAサイクルを意識し問題点、課題を解決し、年度途中でも改善を図っていく。

研修	12	学校課題を解決するための研究、研修が取り組まれている。	C	学校全体を「研修の場」と位置付け、校内・校外での研究を積み重ね研鑽するとともに、個々の教員が常に学ぶ意識を持てるよう環境を整備する。
学校評価 教育目標	13	建学の精神や校訓を活かした教育活動をしている。	C	全校朝礼や授業・学校行事などにおいて、建学の精神に触れる機会を増やし、具現化するよう努力する。
	14	今年度の重点目標を達成すべく教育活動が行われている。	C	年度の重点目標を学年、コースや分掌の教育計画作成に反映させながら進むよう努める。
情報提供	15	学校と保護者はスムーズに連携を行っている。	C	日常的に学校ホームページやBLENDを活用して学校情報を積極的に発信することで、学校の現状を周知する努力をする。
等保 の 連 携 活 動 ／ 地 域 住 民 募 集	16	本校の情報は、中学校教員、中学生や保護者、地域住民向けに効果的に発信されている。	C	学校ホームページ、広報誌などの媒体をさらに工夫して発信する。タイムリーな情報発信を心がける。
	17	本校の特色は効果的に発信され、生徒募集活動につながっている。	B	本校の特色についてさらに集中的にPRし、他校との差別化で選ばれる学校を目指す。
施設設備	18	本校の教育関係の施設・設備は充実している。	C	ICT教育に対応した設備の充実、経年劣化した備品の入れ替えを順次行っていく。

5 総合的な評価結果

総合評価	理由
C	<p>アクティブラーニングの先駆けとして取り組んできた「教える」授業から、生徒が「自ら学ぶ」授業への転換は、質的にも充実してきている。生徒が望む進路実現のための学びや学習への取り組みについて、教員個々の授業力の向上策を模索するとともに各教科における教員配置について今後十分に検討継続していく必要がある。</p> <p>進学面では、114名の卒業生に対し、国公立大学の合格者数は7名(国公立短大4名)であった。ここ数年、進学コースからも連続して合格者が出来ていることから、コース独自の「受験部」の取り組みなどが成果となって現れてきていると考えられる。私立大学についても、上智大学に6名合格するなど積極的に関東圏への進学を志す生徒も多く、学校全体として進学指導の質を上げて行けるよう更なる努力をしたい。</p> <p>募集活動においては丁寧な学校行事やコース行事、部活動などの取り組みや卒業生の進学実績などの説明を通じ他校との差別化を図ったことにより、中学生、保護者、教員をはじめとする教育関係者への周知が進んだ。このことにより、2023年度入試においては近年上川管内の中卒者数が減少する中において、本校の入学者数は153名と定員140名を大幅に超過した。今後この流れを継続させるために、さらに本校生徒の学校活動を充実させ進路実績を向上させることや男子生徒の学校内での活動の活発化をめざすとともに、このことを効果的に発信する募集活動の充実に教職員一丸となって取り組んでいきたい。</p> <p>新型コロナウイルスの5類移行に伴い、感染拡大予防を前提とした学校教育が、「withコロナ」「afterコロナ」の教育活動へと移行していく過渡期になる。ただ単にコロナ禍前の活動に戻すのではなく、この間に得た教育知を元に、新たな学びのあり方や学校活動のあり方についても模索していく必要がある。次年度も引き続き万全の衛生管理とともに授業・部活動・学校行事等の充実を目指した学校生活を引き続き送らせていきたい。</p>